

第6学年

教科	・児童の課題 ○重点目標	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書くこと（記述）への苦手意識が強く、また何を書いていいのかわからず取り組めない児童が多い。 ・漢字の読み書きや同訓異字語の理解が不十分になっている ○複数の資料を見比べて必要な情報を読み取ったり、長文の中から要旨を掴んだりできるようにする。	漢字の読み書きといった基本的な知識（言語事項）のいっそうの定着を図る。ドリルを用いることに加え、ドリルパークも活用し、前向きに読み書きの練習に取り組む時間をつくる。 必要な資料をもとにして自分の考えを記述（発表）する機会を定期的に設ける。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・理由を明らかにして説明したり、論理立てて考えたりすることが苦手な児童が多い。 ・複数の資料から題意を読み取って、課題解決できる力をつけたい。 ○計算を苦手にする児童が少なくなってきたので、根拠を基に説明できる力をつけたい。	解を導いた理由を説明させたり、途中式をきちんと書かせたりする習慣をつけること、また自分と異なる考え方に触れたり、その中でも共通点を見出したりすることを意識して学習に取り組ませる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心は高いが、学習内容の理解が難しい児童が多くいる。 ・自ら問題を見出し、追及していこうとする意欲が低い児童がいる。 ○日常生活の中から学習課題に結び付け、基礎的な知識・技能を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルパークを活用し、学習の振り返りや単元のまとめを行い、学習内容の定着を確認する。 ・児童が自ら問題意識をもてるよう、単元の導入を工夫し、興味関心を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から読み取ったことを関連付けることが苦手である。 ・授業では自分の考えを働かせ、意欲的に取り組むが、知識として蓄積していない。 ○社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的な事象について解決する力や選択・判断する力を伸ばすこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ごととして社会事象や歴史に触れさせて、事象から何が学べるかを常に考えさせるような学習展開を意識する。 ・学習課題に対して見通しをもって追及させることで、見方・考え方を働かせながら学習にすすんで取り組めるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取ったり、楽曲のよさや面白さを見いだしたりすることが苦手である。 ・歌唱や器楽では、自信がもてない児童が多く、表現が小さくなってしまう。 ○音楽を形づくっている要素を理解し、それらの働きが生み出すよさや面白さをすすんで伝えたり、自信をもって音楽活動に取り組めるよう指導したりすることを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な雰囲気楽曲に触れる機会を多く設け、音楽を形づくっている要素を説明し、理解することで、楽曲のよさや面白さを感じ取れるようにする。また、それらの意見を学級で共有する。 ・自信をもって歌唱したり、器楽を演奏したりできるようになるため、丁寧な音取りや運指の指導をおこなったり、よいところを積極的に伝えたりする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせることにつまずきが見られ、自分のイメージを表現することに苦手意識が見られる。 ・表現の意図や思いを想像する力に差があり、造形的な活動に取り組むことに躊躇する場面が見られる。 ○創造的に作ったり、表したりすることを楽し	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたことを言葉で表現する場を設定し、自分の見方や感じ方を広げていく。 ・試行錯誤する時間を設定し、多様な表現方法に触れる中で、お互いのよさを認め合う。 ・作品鑑賞の時間を設定し、様々な表現方法に触れることで自分の見方や感じ方を広げる。

	み、イメージしたことを具体的に表現することのできる力を身に付ける。	
体育	<ul style="list-style-type: none"> • チームで他者のために働きかけ、練習を工夫したりすることができないことがある。 • 苦手意識をもっている領域に対して、意欲的に取り組めない児童がいる。 <p>○運動や健康についての課題解決に対して、友達との協同的な学びを通して、自己の考えを広げたり深めたりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • よい動きや声掛けを意識させるために、ICT機器を効果的に活用し、チームや学級全体で共有する。 • 運動のポイントを視覚的にとらえやすくするために、動画資料を用いる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> • 学習して身に付けたことを基に、自分自身の生活を豊かにすることに消極的な児童もいる。 <p>○知識や技能を生活経験と結び付け、家族の一員であるという自覚をもち、よりよく生きていこうとする心情を育むことを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的、基本的な技能が身に付けられるよう資料や映像を工夫する。 • 家庭学習を活用して、習得した知識や技能を家庭生活で生かし、その様子をアプリ内で共有するなど、意欲が持続する方法を模索する。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。